

刊夕 日八廿月十



定額一冊五銭、一ヶ月五拾銭、三ヶ月一圓、半年一圓五拾銭、一年一圓九拾銭、行金五拾銭、日曜祭日の翌日休刊、発行所常警毎日新聞社、福島縣平町常警毎日新聞社、電話六三〇、印刷所常警毎日新聞社、電話六三〇

凶作の食べ物

S Y 生

▽たらの木の芽を食べる
その一二寸位のもの、そのまゝあぶつて酒味噌でたべる。生味噌でもよい。うどに比べて寧ろ異風な風味もある、意地のわるいところもある。

佐藤春夫の味でせうか。葉にもとげがあるのだがその尺あまりに伸びたものも、茹でてしたちで食べる。どこの山にもよくあるものである。

漆の芽も、このたらの芽に似てゐる、風味も似てゐる。

木の若芽は、大方たべる「からたち」の若芽の苦さは、病のごとく忘れられないものになることもある。

五加は五加皮油の原料、これに「いとひめはぎ」の根、遠志を加へたもので、その上乘と云はれるもの。

これの若芽のひたしは不思議な充奮をもたらす。好ましい。そして何か残忍な

▽躑躅の花をたべるのは、つじの花をたべるのはあまりにあたりまへかも知れない。生で、また「ひたし」にして、貯へるのも鹽漬にして、貯へるのもよ。

(脂肪のふかい)「まんじゆし

やげ」を思はしめる一種はたべない。

花はたべる。

さくら、ぼたん、さくも同じく。蘭茶は、春蘭を鹽漬して貯へ、時にとつて湯を点じて用ひる。匂のふかい品種のせいにくは限りもない。

茶の花は、採つて蒸し、乾かして貯へる。そのまゝの四五輪を抹茶のやうに立て、鹽と冷飯を加へて茶漬につくる。

▽木通の皮を食べる
あけび、は「むべ」と同じく、生のまゝその果肉をた

【朝】味噌汁——豆腐 小付
こんぶ
【晝】八つ頭——ふくめ煮
【晚】ステーキ鶏肉 栗 玉
葱 フライドサルモン
トマト

べるが、その皮は、胡麻、また椿、オリブの油、さらにバター、ヘット、そのいづれでもよいいためて食べる、ほろ苦さか「れいし」の皮とは又別な、これにも動物性のあちはひがある。

皮をこそ、食べるものはこれである。

▽竹の根を食べる
たけのこ、ではない。荷

の後に、地下莖が伸びて、ところどころ地上に這ひあがる、その若く、太めのもをとつて、あぶらで痛めて更らに味をつけて食べる

これは、殆ど年中味はへるくまざさ、すずたけ、ねまがりたけ、その他、竹るぬいつさい、の實は、救荒の用に充てると云ふ位だが實を結んだ竹は、大抵枯れるものである。

食へる。食べる位罪のないものはないぞと云ふ。…【完】



(俳句)
飯田 残雪

柿もあり芋畑もある山家かな
虫狩に行く見たちを見送り
峠路や人に出會はず虫の聲
わが街の見えすなりける虫の聲

看護婦急派
求めに應じ
ます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七

お醤油は……ヤマフル

醬油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

鹽屋
金山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部製造工場七)
明治生命警城代理店 山崎 與三郎

秋 深し!!!
旅行に!!ピクニックに!!散策に!!
今こそカメラ 絶好のシーズン
素人に良く撮れるカメラとして
絶大の好評を博して居る

いづみやの
MSカメラ
コダック型
一圓より
十五圓迄各種

平驛前 いづみや玩具店
カメラ部

只今の値段

スコッチ 一オン十銭
並毛糸 // 十一銭ヨリ
霜降毛糸 // 十四銭マデ
今年度新色全部揃ひました
ハシモトヤ特製
平編のドレスセーターも澤山揃ひました

平・田町 ハシモトヤ糸店
電話十四番

御料理 折詰
仕出し

松茸料理を
始めました

平二警察署通り
魚清食堂
電話六三三

耳鼻咽喉科専門

平田町(電話六九一番)

病室完備
自炊便有

山内醫院
醫學士山内亨吉

株式賣買
合資三共商事
大町 電話三六〇番

惨！列車眞ッ逆様

四丈下の縣道に墜落

交通通信ともに杜絶し

二時間遅れて悲報来る

地團太踏む救援隊

死者十一名・重軽傷四十九名

廿七日午後三時五十分郡山發越東線平二〇旅客列車が折柄の雷雨を衝いて同夜六時頃川前—小川間の小川村大字上小川字中川地内を暴進中豪雨の爲め崩壊した土砂に乗り上げ降時にして機關車は脱線覆り四十尺下の縣道に墜落した爲め續いて郵便車、二等車、三等車等四輛は旅客を乗せた儘大音響と共に機關車に引摺られて轉落し土砂をかぶつて折重つて顛覆滅茶々々大破し乗客百二十名のうち死者十一名、重軽傷者四十九名を出し阿鼻叫喚の此の世ながらの修羅場と化したが夜來の雷雨に打たれて總べての通信網は全部不通となつた爲め此の悲報は二時間遅れた午後八時漸く平野に入つた仕末に急を聞いて駆け付けた水戸運輸の大木運轉、佐藤庶務兩課長外、後藤平驛長其他關係者及び柴田平署長の指揮する警察隊、醫師團等六十餘名が救援列車に乗り込んだが赤井、小川郷間線路が浸水氾濫して列車運轉は危険に陥つた爲め一時救援車の出發を見合せ同夜十一時に至つて漸く減水し始めるのを待ち前記救援隊と遺族等に乗せた第一救援車は同十一時四十分現場に向つた

惨事現場は

唯一の難所

籠場の瀧附近

修羅場と化する

九死に一生を得た三〇一輛

列車顛覆の現場は川前、小川兩驛からいづれも四キロを離るの地点、江田信號所を過ぎ籠場の瀧と呼ばれる

紅葉の名所附近で磐越東線最大の千分の二十と云ふ急勾配の難所に當り線路の左側は約三百米の切り

検事一行

現場を臨檢

別稿列車顛覆事件現場臨檢

のため平検事局より清田検事、黒澤監督書記一行は青木寫眞店主を同道自動車で急行した

即死と重軽傷

別項顛覆列車の即死及び重軽傷者左記の如くである

- △即死者 平町古銀治 町米穀商久保木林之助氏 長男正己(三)同四丁目勇屋下駄店主齊藤英三郎(四)
- △同二丁目西村藥舖主鈴木邦三郎(五)同田村七郎(四) 村鈴木常美(四)神谷村鎌田清野傳左衛門(五)飯野村在郷軍人分會長山崎龜男(三)一見農夫体才吉から源治様金八圓十七錢の受取書及び安江六三郎から源治への受取所持者
- (推定年齢五十才)婦人河沼郡柳津村字中野岡崎茶太郎宅のしがき 推定年齢(五十五才)佐藤久助の名刺と山形市片町富田勸次郎と書いた紙片を所持 推定(五十才)洋服着用三十四五才の男子 胸に赤色のジャケツの男子廿二三才位 合計十一名
- △重傷者 平町久保町野崎春雄(三)双葉郡龍田驛前岩原兵郎(三)山形縣村山郡西郷村板垣常四郎(三)同村山口丑之助(三)平町仲町二福田力彌(三)東京市淺草區淺草橋三ノ二(一)高野正夫(三)内郷村磐城炭礦運輸課長湊慶三郎(四)平町三丁目江尻豊藏(四)平町大町山野邊陽(三)水戸市榮町竹内義一(五)植田町佐藤政一(三)平町大町谷津伍介(三)茨城縣助川町山口義雄(三)同(五)平町三丁目横山徳雄(三)好間村古河炭礦香月秀一(三)平町色川材木店方國府田尚(三)上小川村草野たけ 平町仲間町猪狩光吉(五)鹿島村磯部左衛門(三)地方課農林技師堤左馬 上小川村草野四郎平(五)新潟縣岩船郡向林村石田鐵藏(四)下小川村國分留治(四)同長山余七(四)宮城縣刈田郡七戸宿村國分忠義(三)平町大町宇佐美甚藏 小野新町仲根喜一郎 搔樋小路吉田盛之助(三)平町胡摩澤秋本助之助(三)計三八名(外十二名無事)

悲しみの一家

惜しい人物

いまは無し

悲愁の西村藥舖

悲しみの西村藥舖一家は意外の災厄に大混雜、慌しく人々の出入する奥の一間に安置した遺骸の枕頭に立ちのぼる香煙が涙を唆り、近親者は風無き林の如く黙々として今は亡き主人鈴木邦三郎氏を護る、弔問客の誰の顔にも「惜しい人物を失つた」との烙印が押され、たゞ夢見る氣持ちで遭難の模様を語り合ふ聲が一家

働きの盛り

前厄の齊藤氏

平町第一の下駄問屋勇屋履物店主齊藤榮三郎氏は享年四十一、少壯實業家として囑望さるゝ處の多かつた人既に棺は着いてその傍らに夫人が泣き崩れ居る、實父丹野翁は悲痛な皺を深く顔に波打たせて不慮の死に先立つ息子榮三郎氏の冥福を祈るものゝ如く時々

變り果て

歸る故人に

淋しい北枕の床

久保木米穀主の大事な長男夫れを失つては兩親の嘆きは云ふ迄もない母上は涙ながらに「山形の親類に病氣治療に行つて居たのです、漸く全快して歸途に着いた處を此の災難です、多分月末にもなり家も忙しと思つて歸つて来たものと思はれますが、餘り吃驚して涙も出ない始末です」と語る今に變り果て、歸る故人の爲め北枕に淋しく床が敷かれてあつた

木村病院

平町新川町十九
電話一六四番

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎巡文庫

電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

物凄い雨に

不安な一夜

浸水家屋續出

平町の被害が甚大

平町は昨日朝来の雨が午後三時頃から俄然車輛を流さるばかりの豪雨と化し加はる風勢に益々勢ひを得て荒れ狂ひ時節外れの電鳴さへ轟き亘つて物凄く大時化となつた爲め市内の各戸は固く門戸を閉して不安な内に夜を迎へたが依然として豪雨は間断なく降り注ぎ午後十時半列車顛覆の悲報至る頃夏井川、新川、古川等の各河川は突如氾濫し初め警鐘頻りに鳴り響いて消防隊、火防組、青年團等の警戒中

国道を始め各道路は恰も河川の如き觀を呈して泥水押し流し南裡田圃一面は全くの泥海と化し鐵道以北は床上下の浸水

家屋續出 殊に鎌田町方面は岡田牛乳舎下の夏井川護岸の基礎工事が破壊せる爲め附近一帯に悪水浸入し路上は腰だけの水が流れて是れ又浸水家屋相次ぎ月見町は愛谷江筋と
新川の水 に惱まれ其他新川町から長橋町にかけて新川べりの各町には相當浸水家屋があつた 因に収穫期の新川以南の稻は相當冠水を見たが幸ひ刈取つた

流出

入遠野村の被害激甚か

被激甚か

稲が渺なかつたので流失束の被害は割合にない、尙今曉午前二時頃から減水し平町役場は早朝被害調査中であるが才穂小路から小學校への登り坂、縣社裡に當る
平商側のコンクリート 止めの壁は約一間四方バクリと口を開け龜裂が縦横に走つて小學生の通行に多大の危険を感じつゝある

外道路、溝渠等、被害が仲々に多い模様である
作業所が
鮫川上流の入遠野村字根本の過般竣功した許りの共同作業所は鮫川氾濫の結果流出行方不明となり河を隔てた同村小學校の安否を氣付かされてゐるが植田町より同村に至る道路潰潰して交通杜絶のため目下のところ判明せず今次水害の最激甚地と目されてゐる

損害は

意外の巨額?

平土木監督所調査に躍起

平土木監督所の管内悪水氾濫の被害調査は本日正午迄に判明せるものは橋梁流失山崩れ、道路及び堤防の欠壞等に依る損害約十五、六萬圓と見られ尙矢繼早に續々報告ある處から見て意外の巨額に達する模様である道路欠壞に依る交通杜絶の個所は
△大野村地内(四倉、小野新町線)△好間地内(上三阪方部)△上遠野村地内(石川、二本松方面に至る

線)△上小川地内(小野新町、平間)
□堤防欠壞
△藤原川(警備村外五ヶ所)△新川(内郷地内十ヶ所延長五百米)△鮫川(山田方部數ヶ所)△夏井川上流白崎二十間)△仁井田川(太野村柳生地内卅間)
△流失橋
下平橋(上小川)六十枚橋(夏井、草野間)根岸橋(上遠野村)度京橋(上遠野

明日のラジオ
廿九日
西の風快晴
今夜も明日も北

平驛の

應急處置

平驛は昨日午後七時四十分頃遭難現場から七八丁離れた日立電力第二發電所の電話で同社平變電所を経て急報に接し取敢ず小川驛に於て十餘名と駐在巡查の指揮する同村消防組約二十餘名を午後八時に先發せしめ現場附近へはガソリン車、徒歩等で連絡して現場に駆け付けせしめ更に福島、郡山の迂回電話を利用して郡山小野新町から救援隊二百餘名の急派を乞ひ重傷者は直にトラックに依つて小野新町春山病院、郡山市太田病院に急送應急手当を加へ

各川増水

昨日の調査

昨日の豪雨に依る郡下各川の増水左の如くである
△夏井川十八尺(廿七日午後十二時)△新川十五尺(同日同十一時)△鮫川十六尺(同日同九時)

上遠野に

山崩れ

山崩れ

上遠野村は村内度京橋が流失してそれに山崩れ(四十間位)あり交通全く杜絶して目下平土木監督所より所員出張調査中であるが幸ひ稲は刈取前の爲冠水程度で大した被害はないものと見らる

明日の部
後八、三〇 義太夫「伽羅」
後八、三〇 義太夫「伽羅」
浄るり竹本東廣 三味線
豊澤仙平
後九、〇〇 ラヂオ小説
「荒木又右衛門」(二)市川八百藏
後九、三〇 時報 ニュー
明日の歴史 氣象通

前六、三〇 基礎ドイ、講座 武内大造
前七、〇〇 朝の修養「教育に關する勸語解讀」二川村理助
前九、〇〇 衛生メモ
前九、〇〇 幼児の時間
唱歌「ウサギ」ダン道子
前一〇、三〇 家庭講座
「禮装の知識」岡ハツノ
午後 明治神宮體育大會
入場式及開會式：神宮競技場中繼
後二、〇〇 小學生の時間
尋三音楽 下總院一木下照子
後二、四〇 小學生の時間
體一地理 お話と音楽

歐洲の現状 堤峰次郎
後六、〇〇 子供の時間
子供の音楽會 無憂華幼稚園々兒
後六、二五 青年の時間
「私の見た満蒙」内田泰郎
後七、三〇 講演「中央アジア及近東諸國との貿易關係」松島肇
後八、〇〇 但話 今重造
他
後八、三〇 合唱「メシア」竹内禎子他 同志社榮光館フアラワー講堂中繼(京都)
後九、〇〇 ラヂオ小説
「荒木又右衛門」(三)市川八百藏

前六、三〇 基礎ドイ、講座 武内大造
前七、〇〇 朝の修養「教育に關する勸語解讀」二川村理助
前九、〇〇 衛生メモ
前九、〇〇 幼児の時間
唱歌「ウサギ」ダン道子
前一〇、三〇 家庭講座
「禮装の知識」岡ハツノ
午後 明治神宮體育大會
入場式及開會式：神宮競技場中繼
後二、〇〇 小學生の時間
尋三音楽 下總院一木下照子
後二、四〇 小學生の時間
體一地理 お話と音楽

歐洲の現状 堤峰次郎
後六、〇〇 子供の時間
子供の音楽會 無憂華幼稚園々兒
後六、二五 青年の時間
「私の見た満蒙」内田泰郎
後七、三〇 講演「中央アジア及近東諸國との貿易關係」松島肇
後八、〇〇 但話 今重造
他
後八、三〇 合唱「メシア」竹内禎子他 同志社榮光館フアラワー講堂中繼(京都)
後九、〇〇 ラヂオ小説
「荒木又右衛門」(三)市川八百藏

家屋流る
藤原炭礦被害
好間村は縣道約百間埋没、橋梁破壊九ヶ所、損害九百圓、尚浸水家屋は床上五〇戸、床下百十四戸、流失家屋一戸(損害百五十圓)倒壊家屋四戸(損害五百圓)あり一方萩原炭礦坑夫長屋十二戸倒壊と共に同礦棧橋破壊二ヶ所(損害五百圓)同礦專用鐵道五十間埋没して損害未定

浸水家屋
一千三百戸
内郷の慘狀
内郷村の浸水家屋は床上浸水五百八戸、床下浸水七百五十九戸と判明其他詳細調査中
橋梁六ヶ所
跡形なく流失
赤井河川被害
赤井村は各河川氾濫、大小橋梁六ヶ所流失損害約千五百圓と見られるが此外福島炭礦、川瀬炭礦等の被害も可成り多額に及ぶ模様である

鈴木邦三郎儀不慮の災禍により昨二十七日午後六時三十分旅行先にて死去致候間此段謹告仕候 敬具
追而葬送の儀は来る三十日午後一時自宅出棺 菩提院に於て佛式に依り相替可申候
昭和十年十月二十八日
平町二丁目
兄 鈴木 堅 助
男 鈴木新右衛門



明治太平記

(上段及上段) (作) 寺島在史 (監) 野口

第六十一回

新島原跡 (一)

西郷も、やがて故山へ歸るだらう——

と、おもふと、一步さきにそれができるおのれをありかたに感じた。

けれど、さらに願見ると大志賀には故山がなかつた江戸を、東京を生れ故郷に待つものゝ不幸……それは永久に魂の故郷を失つたさ迷へる羊だつた。

野望と、利慾と、虚偽と愛慾の渦を巻く東京……この文明開化の悪の華の咲くところを厭悪し、反視しつつも、故山をもたぬ大志賀は、東京を去りゆくことがやはり寂しかつた。考へてみると、西郷より自由の身でありながら、西郷よりやはり不幸であるおのれがしみみ氣の毒だつた。

そこで、相變らず東京市中を、漂々、浪々と流れあつた。淺黄染の尻切れ袴天のうへに、西郷から惠まれた薩摩紵の綿入れを重ねた古手拭ひの頬かむりと云つた扮装で、日蔭者の日常を送るよりかはなかつた。死……

ふと、大志賀のこゝろの奥にこんな思はしい、けれどもいまは朗かに感じられるひとつのおもひが泉のやうに湧いた。

いほど彼は、らしやめんおとわの面輪がしのばれるのだつた。さうだ、あのをな子もやがて死ぬぞうだ。情ないが、輝かしい旗本の名を清算し一介の痴人としてあのをな子と死んでいかう。ホテル館二階の、パークスの室とおぼしい玻璃窓に宵の灯火が薔薇のやうに明るかつた。



志賀だつた。だが、死ぬるなら、せめてひと目あの女の顔をみたりへ……とおもつた。

大志賀は、今宵、ホテル館附近を馮かれたものゝやうに徘徊し、明るい窓を仰ぎ、いくたびか溜息をついてをつた。

いつて、その撫肩をきつと抱き、黒髪を噛み切つてやりたいほどの愛憐の情を覺えた。しかし、飛んでゆくわけにはいかぬかなしさが、一倍大志賀をくるしめ、苛立たしめた。

ろくに感じた。その戀のくろみにわれと吾身を打ち込んで、情に溺れて死んでしまつたら、それで本望だ、なまけなさいがそこまでおもひつめてゐた。

外科 X 光線科

性病科 外科 平町田町

安齊外科醫院 電話四七五番

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院 醫學士 鈴木 正男

自炊のお需めに應ず 入院の便あり 平町田町 (電話五八番) 藤田女學校前

9.5 m. m PONY CINE-CAMERA ¥ 18.00 PROJECTOR ¥ 17.00 NSHMURAY-YAKUHO TAIRA-2. TEL 3

素晴らしい乗心地の!!! 三十五年式流線型新車が参りました。是非御試乗御利用の程を御願申します。 三井タクシー 電話六八五番

夜間 診療 腸胃科 性病科 皮膚科 花柳病科 胃腸病科 性病科 院醫 性病 胃腸 院醫 性病 胃腸 (番七〇一町南町平)

かまぼこ 製造 杉本 電話一四一番